JOCV千葉OB会報

2015 年 1 月
No. 87
新年号

1. 会長挨拶

今年、平成 27 年は青年海外協力隊創設 50 周年の記念すべき年です。半世紀です。思えば、よくもこんなに長く事業が続いてきたものです。昭和 40 年に始まった事業ですが、当時の青年は後期高齢者になっている方々も多く、すでに人生を全うした方も相当数います。日本は超高齢化社会を目前に控え、昨年前期高齢者の仲間入りした私を含む団塊の世代がこれからの超高齢化社会の中心になるかと思えばゾッとします。

青年海外協力隊事務局ではこれまでの最大規模の記念式典を計画しているようが、会場は武道館や NHK ホールなどではなく横浜あたりになるようです。
内容はあまり漏れ伝わってきませんが、きっと天皇皇后両陛下にもお越しいただき盛大に開催されることでしょう。

さて、次の 50 年は一体どうなっていくのでしょうね？まさに「協力隊よどこに行く！」って感じです。高度成長時代の行け行けどんどんからバブルが弾けて経済状況の厳しい時代をたくましく生き抜いてきたボランティア事業、50 年もやっていると考え方も大きく変わってきたように思います。その最大のものが「青年の育成事業の側面」から「国民参加型」へと変貌したことでしょう。
古い OB/OG は良く覚えていると思いますが、訓練所に入所してから耳ダコで聞いたフレーズは「協力隊事業は技術協力事業の一環ではあるが、青年の育成事業でもある。君たちもきっと大きく成長して帰国するであろう。」と言うことではないでしょうか。この事業は、技術を持った青年の開発途上国への技術援助はもちろんですが、参加した青年が大きく成長して、帰国後は日本社会へ貢献することが期待されていたのだと思います。

でも今は誰も青年の育成事業だとは言いません。本当に青年は十分に育ったのでしょうか？そうではないでしょうね。途上国から見たら、「なに？JOCV は日本青年の育成事業？そんなのは我が国にとってとても失礼なことだ、青年の育成は日本でやってくれ。」なんて声がどこからか聞こえてきたのでしょうか。

いろいろ屁理屈こねる人々はどこにもいます。それでも 50 年間、粛々と協力隊事業は続いてきたのです。多くの仲間の屍の上を超えて来たとは言いませんが、一体どのくらいの仲間が志半ば無念の涙を流してきたのでしょうか。JICA 在職 30 年間で私は何回葬儀に出席したでしょうか。ケニアには昭和 56、57 年 2 回もご遺族を現地にお連れしました。交通事故が最も多い死亡原因ですが、マラリアや風土病などで亡くなった隊員もいます。病気療養で帰国した隊員は数知れず、幸いに現場復帰した隊員もいますが、挫折した隊員もいます。広尾にある慰霊碑の行先はまだ決まっていないようですが、古い隊員としては、慰霊碑を含めても「協力隊よどこに行く？」と声を大にして叫びたい気持ちです。

現在の協力隊事務局長は隊員 OB です。米国平和部隊の隊長も OB/OG がほとんどと聞いています。「隊員の気持ちは隊員経験者でなければわからない」とも言われます。ただ、隊員経験者であるが故に厳しい言葉や対応もあります。古い隊員がしたり顔で説教する時代ではありませんが、50 年の経験を活かして次の 50 年はさらに素晴らしい協力隊事業にしてほしいものです。

はてさて今年の初夢はなんだったのでしょうね？きっと良い夢を見ることができたのでしょうか？老若男女、4 万人にもなる JOCV 関係者に幸多かれと願わずにはいられません。

そして、当たり前ですが、今も開発途上国のどこかで悪戦苦闘している派遣中の隊員たちに「頑張れ！頑張れ！」とエールを送りたいと思います。

隊員候補生時代（広尾訓練所）

青年海外協力隊千葉ＯＢ会
会長　　浜田　眞一
（昭和 51 年度 2 次隊前期）

目次

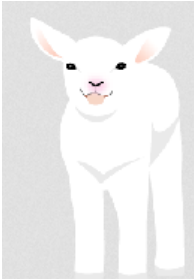
1. 会長挨拶
2. 活動報告
3. 活動予定
4. 現地活動レポート

H25-3	安住和人	ブルキナファソ	コミュニティ開発	松戸市
H25-2	檜山愛	モザンビーク	青少年活動	成田市
H25-3	原健太	サモア	野菜栽培	市川市
H25-4	山口真次	ペルー	環境教育	柏市
H25-2	西田集	エクアドル	環境教育	野田市
H25-2	川野歩美	バングラデシュ	コミュニティ開発	四街道市
H25-2	野田みさと	ドミニカ共和国	コミュニティ開発	習志野市
H25-3	松田沙弥香	ケニア	青少年活動	船橋市

5. OB 近況報告

S54-3	小山栄一	ザンビア	無線通信機	館山市

6. 編集後記



2. 活動報告(2014 年 7 月～12 月)

定例行事

JOCV ナビ(協力隊希望者説明会)	毎月実施
千葉ＯＢ会 定例会	隔月実施
派遣隊員壮行会	新隊員派遣時

その他、各種会合への出席、懇親会など

9/20 浦安市国際交流/協力フェスティバル 2014 出展

JR 新浦安駅前広場にて浦安市国際交流/協力フェスティバル 2014 が開催され、当会は JICA 千葉デスクと連携して初めて出展しました。

10/4～5 日比谷公園 グローバルフェスタ出展

昨年に引き続き、国内最大級の国際協力イベントであるグローバルフェスタに出展しました。ＯＢ会メンバーが持ち寄った各国の民芸品や各国のスイーツの紹介、パラグアイＯＧによるマテ茶試飲、応募相談、スタンプラリーへの参加などを行いました。

国際協力フェスティバルに出展

10/5 国際フェスタ CHIBA に出展

麗澤大学(柏市)で開催された国際フェスタ千葉に出展し、応募相談/活動紹介などを実施しました。

10/25 松戸市国際文化祭　出展

松戸市民会館にて第 19 回松戸市国際文化祭が開催され、当会は JICA 千葉デスクと連携して初めて出展しました。

11/9 グローバルキッチン実施

食を通して異文化に触れることができるイベント「グローバルキッチン」を開催しました。千葉市生涯学習センターの調理室を借りて、セネガルとブルキナファソ隊員ＯＶが任国の料理を紹介し、参加者全員で調理しました。調理を通して、異文化理解を深めると共に、国際協力に興味のある参加者同士の交流を深めることができました。

セネガル料理とブルキナファソ料理を作りました

活動実績の詳細は HP をご覧ください。

3. 活動予定(2015 年 1 月～6 月)

JOCV ナビ(協力隊希望者説明会)

毎月第 4 土曜日 14：00～16：00　浦安市国際センターにて、協力隊受験希望者への説明会を実施しています。希望者には、経験豊かな OB より試験対策も行います。

麗澤大学連携講座

麗澤大学と連携し、協力隊 OB/OG による国際協力への理解を深めるための講座を実施します。麗澤大学で教鞭をとっている当 OB 会の成瀬副会長の働きかけにより、昨年より開始しています。

イベントへの出展

千葉および千葉近郊で実施される国際協力関連のイベントへの出展を予定しています。

壮行会

派遣前の千葉出身の新隊員の壮行会を実施します。

定例会

奇数月の第 4 土曜日 16：00 から浦安市国際センターにて開催しています。議題は OB 会運営や、各種イベント準備など。

懇親会

OB 会メンバー間の連携を深めるための懇親会を実施します。

グローバルキッチン

食を通して異文化に触れることができるイベント「グローバルキッチン」を隔月で実施します。運営に協力いただける方や、各国料理を紹介してくれる講師を随時募集中です。

最新の活動予定については HP をご覧ください。

4. 現地活動レポート

H25-3 安住和人 ブルキナファソ コミュニティ開発 松戸市

Bonjour. Comment ça va?
平成 25 年 3 次隊ブルキナファソ派遣コミュニティ開発の安住和人と申します。ブルキナファソといえば、27 年間続いていた政権がクーデターで倒されたため、最近ニュースでその名前を聞いたことがいるかもしれません。首都は確かに色々な問題がありましたが、私の任地であるクーペラ（首都から東に 120 キロ程度）では、デモ行進がされた程度で、その影響は特にありませんでした。そして、政情も落ち着いてきたため、「今後どうなるの？」と現地の人に聞くと、みんな「çava aller（なんとかなるさ。)」という答えが返ってきます。きっとなんとかなるんでしょう。

さて、私の活動に話を移すと、私はクーペラ市保健局に配属されており、クーペラ市の村落地域にある村々での保健・衛生環境の向上のために働いています。日本でも、様々なところで目にし、耳にするであろうアフリカの保健・衛生に関する問題に取り組んでいます。具体的には、トイレがない・トイレの後に手を洗わない、雨季におけるマラリアの蔓延、そして超多産（少なくとも 4 人、多いと 10 人！）といった問題です。

授業の様子

それらの問題の難しさは、それらが村において当然であり、しょうがないと認識されている点にあります。マラリアを例に取れば、日本では、「多くの人を死に至らしめる恐ろしい病気」と 認識されていますが、こちらでは、日本における風邪と同じような認識であり、みんな罹って当然と思っています。日本における風邪と同じ感覚です。なので、私が誰かに「熱がある」とか、「頭が痛い」というと、みんな、「それはマラリアだよ」といいます。実際、こちらのほとんどの人はみんなマラリアの罹患経験があります。

我が家のペット

そのような認識を変え、少しでも行動の変化を促すことが、私の仕事です。とは言うものの、人はなかなか自分の行動を変えることができません。「蚊帳を買い換える、修理するお金がない」等と理由をつけて、知識を実行に移す人は多くないのが実態です。(確かに村人は多くのお金を持っているわけではありませんが、その程度のお金は持っています。)
そのため、人々が 自分自身の行動を変えてくれるように、絵を使用した啓発活動をしたり、楽しめる啓発活動を企画してみたりと、様々な試行錯誤を繰り返しています。

上記のように書くと、とてもシビアな生活環境にいると思うかもしれませんが、そんなことはなく、うちで飼っているペットと戯れたり、夜はたまに同僚とビールを飲むにいったり、ブルキナライフを楽しんでいます。あと残りは 1 年間ですが、悩み、苦労しつつも楽しむことを忘れずにすごしていきたいと思います。

H25-2 檜山 愛 モザンビーク 青少年活動 成田市

ボアタルジ！(こんにちは)私はアフリカのモザンビーク共和国にて平成 25 年度 2 次隊青少年活動隊員として活動しております。私の任地であるモザンビーク島は、モザンビーク共和国唯一の世界遺産であり、かつてモザンビークの首都だったとは信じられない程大陸側とはまるで違う独特な雰囲気があります。また、モザンビーク島はかつて交易地としても栄え、様々な文化の交差点でした。ポルトガル植民地時代の面影と独自のアフリカの文化に加え、18 世紀以降はイスラム教徒やヒンドゥー教徒が大量に移住したため、教会だけではなくモスクやヒンドゥー寺院が小さな島内に共存しています。島の人々は、とてもおおらかで陽気であり、たくさんの変化やつらい歴史も受けとめ、乗り越えながら共存してきたんだろうな…と、実感する毎日です。水道や電気も安定していないため、人々は日の出と共に朝早くから動き出し、灼熱の太陽が照り付ける日中は道にござを敷いてのんびりお昼寝するなど、のんびりとした時間の流れの中で生活しています。

世界遺産モザンビーク島の美しい海岸

私は 2011 年に日本の草の根無償資金協力で改築された 6 月 25 日(独立記念日)小学校にて、音楽の教師として活動しています。モザンビークの義務教育は小学校の 7 年間であり、午前中は高学年、午後は低学年と 2 部制に分けられています。生活のため働く必要がある生徒など家庭環境は様々であり、留年制度もあるモザンビークでは生徒の年齢はばらばらでクラス内には 19 歳の 7 年生もいるほどです。現在私は午前中は高学年の音楽の授業、午後は音楽クラブの顧問をしています。楽器はもちろんなく、理論中心の難しい教科書を進めるだけの授業だったため、生徒達は「ドの次はソ」と答えるなど音楽の知識がゼロからスタートでした。しかし、生徒たちの歌声を初めて聞いた時は、

彼らが持つ才能や可能性に鳥肌がたったのを覚えています。誰か 1 人が歌いだすと、メインメロディーを聞きながら自分の音を選んで自然に音が重なっていく…生徒は恥ずかしがらずに自然にハーモニーを奏でるので、まるで音楽で会話しているようだと感じました。今年度はJICAの現地業務費申請制度を利用し、ピアニカが 25 台授業で使えるようになりました。先日は国歌などを演奏する発表会を開く事ができ、日々生徒の成長を感じています。この発表会がきっかけで、島内の多くの人がピアニカという楽器に興味をもってくれるようになりました。今後は島内の教員全体に向けて音楽基礎講習会を実施していく予定です。

私は歴史あるこの島と、どんな事も笑顔で受け入れてくれるおおらかな島の人々が大好きです。今日まで悩み泣く日もありましたが、いつも気が付くと島の人々に支えられてきた 13 か月間でした。残り約 1 年、しっかり恩返しができるように頑張っていきたいです。

小学校での音楽の授業風景

H25-3 原健太 サモア 野菜栽培 市川市

派遣先：サモア看護師協会

隊員活動について

私は現在、野菜栽培隊員として、サモア独立国のサモア看護師協会で活動しています。WHO の統計では、国民の８０％以上が過体重であり、女性の平均体重は約８０ｋｇです。私の活動内容はそんなサモアの人たちの健康のため野菜の摂取量を増加させましょう！という内容です。私の主な活動先は、サモア看護師協会およびサモア国内にある地方病院です。赴任して約１年経ちますが、各地方病院に小さな野菜畑を作ることができました。次の１年ではこの野菜畑を利用し、患者やその家族に対して栄養指導および野菜栽培指導を行うことを目標としています。

サモアは皆さんが想像する通り、南国の常夏の島です。南半球なので、季節は日本と逆のため、現在は夏で雨季です。土壌や天候に恵まれているため、野菜は雑草のように簡単に栽培することができます。しかし、サモアでは文化的な背景もあることから、あまり野菜を食べる民族ではありません。また、調理方法も非常に限られた方法しか用いません。そんなサモアの人々に少しでも野菜を食べてもらおうと活動している今日この頃です。

任地に関すること

サモアでは、非常に体の大きい女性が多いです。それは、太っている女性のほうが綺麗であるという文化的な背景があるようです。あるサモア人に聞いた話ですが、結婚適齢期（サモアでは２４歳まで？）の痩せている女性がいました。その女性は、当時まったくモテなくお見合いの話なども全くありませんでした、しかし、その女性はある日をさかいに徐々に太っていきました。すると突然、男性からモテはじめ、お見合いの話なども来るようになったそうです。

現在では、インターネットなどの普及により、若者では太っているから綺麗と考える人が少なくなってきているかもしれません。ですが、文化を大事にするサモアでは、まだまだこのような認識があるようです。

サモアン野菜

サモアで販売されている野菜のほとんどは、海外から入ってきた野菜です。ナス、トマト、チンゲンサイ、キュウリなどは日常的に購入することができます。これらの野菜の問題は、栽培管理をしなければいけないということです。タロイモなど、あまり管理しなくても生育する作物を栽培してきた一般のサモアの人々には、これらの野菜をつくることは少し難しいように感じます。サモアで自生している葉物野菜がありますが、その中でもラウペレという野菜が非常に簡単に栽培でき、しかも栄養価が高いことがわかっています。オセアニア地域では、アイビカやペレなどの名前で呼ばれることも多いです。このラウペレは、挿し木によって簡単に増殖しますが、サモアでは栽培されていることはほとんどありません。伝統野菜がもっとフォーカスされればこんなにうれしいことはありません。

H25-4 山口真次 ペルー 環境教育 柏市

平成 25 年度 4 次隊の山口真次(やまぐちしんじ)と申します。2014 年 4 月より、「ペルー共和国ピウラ州タララ郡」で活動しています。環境教育隊員として 2016 年 3 月までの 2 年間、JICA の固形廃棄物処理場建設プロジェクト（円借款事業）と連動して郡内における 3R（リデュース：廃棄物の抑制・リユース：再使用・リサイクル：再資源化）の普及・推進活動に従事いたします。現在は、タララ郡役所の環境課に所属し、学校巡回や市場の清掃を通して、町のゴミ削減を啓発しています。

環境教育の様子

任国ペルーは日本の約 3.4 倍の面積を有する自然豊かな国です。その国土は、コスタ（海岸地帯）・シエラ（山岳地帯）・セルバ（森林地帯）の 3 つの地形に分けられます。なお、任地タララ郡は、北部の太平洋沿岸地域に位置し、コスタに属しています。そのため、ペルーのイメージとして多くの皆様が思い浮かべるアンデス山脈やマチュピチュは遥か彼方にあり、コンドルも飛んでいません。しかし、ペルー北部にはきれいな砂浜が広がり、クジラやマングローブを見ることができます。

ペルーの人々は親切で人懐っこい印象です。そのうえ、会話好きな人が多く、気がついたときには井戸端会議が始まっていることもしばしばあります。また、日本に比べると家族・親戚間における絆の強さを感じます。都市で一人暮らしをしている人々も折に触れて里帰りをしているようです。中には毎週末に親戚が一同に会する家庭もあります。

日本ではあまり馴染みがありませんが、ペルー料理はバリエーション豊富で日本人の舌にもよく合うと思います。米・パン・トウモロコシ・豚肉・牛肉・魚はもちろん、地方によってはヤギ肉やクイ（テンジクネズミ）も食されています。ペルー人の食に対するこだわりは強く、「ペルー料理は世界一」と言わんばかりの自負を持っているようです。任地では魚料理が美味しく、とりわけ、白身魚に大量のレモンを絞った「セビッチェ」は一度食べるとやみつきになります。ヤギ肉もしばしば食卓に並びます。一般的に、一日の食事の中では昼食が最も重視されています。同僚の多くは一度帰宅し、家族そろってのランチタイムを過ごしています。

ペルーにはそれぞれの地域ごとに様々なお祭りがあり、週末の夕方頃になると、各町の中心にある「アルマス広場」が活気にあふれます。音楽に合わせて踊る人々の宴は一晩中続きます。

任期も 4 分の 1 が経過しましたが、協力隊の一員として活動させていただけることに対する感謝の気持ちを忘れずに、日々の活動に取り組んでいきたいです。

ペルー料理（右：セビッチェ、左：アロス・コン・マリスコス）

H25-2 西田 集 エクアドル 環境教育 野田市

25 年 2 次隊エクアドルで環境隊員として活動している西田集です。エクアドルと聞いて皆さんは何をイメージできるでしょうか。ガラパゴス・バナナ・カカオは日本でも知られているでしょう。本稿では活動紹介に加え、まだまだあるエクアドルの魅力もお伝えしたいと思います。

まずは私の活動から。任地アマグアニャは標高 2500m 首都キト市端にある区で 40000 人程の長閑な街、自然豊かでハチドリもやってくる静かな空気の澄んだ街、更に首都中心部まで 1 時間と住民としてもボランティアとしても環境の整った地域です。配属先は区役所と NGO の 2 カ所で、役場ではゴミ関連のプロジェクトを、NGO では自然公園の管理、環境教育講座を行っています。

巡回先の小学校

この 1 年は NGO をメインの活動先として働き、半年間に亘る 6 校対象の巡回型環境教育講座、地域住民向け高倉式コンポスト講座、公園内での日本文化紹介祭り、ミニ日本庭園作りを行ってきました。小規模 NGO での活動なため大きいプロジェクトを動かすのは難しいですが、学校や住民クラブなどの既存の団体対象に定期的に行くことは可能なため、自分で活動先を探しながら講座を広げて行っています。活動の半分は営業活動だと考えており、自分の売り込み、コンポストやその他プロジェクトの売り込みをするための信頼関係構築を目指して活動してきました。今後も新規開拓を続けながらルート営業も継続させる、これが残りの任期の活動になるかと予想しています。

標高 5000m にて（チンボラソ山）

さて、活動紹介はこれくらいにして、エクアドルの魅力をボランティア目線で紹介したいと思います。
何よりエクアドル隊員として恵まれているのが旅先の多さ、バリエーション豊かさです。南北４つのラインで気候や環境が違い、西からアマゾンのあるオリエンテ、5000m 級の山々のあるアンデスのシエラ、陽気な海岸沿いのコスタ、少し離れた諸島で動植物豊かなガラパゴスと各々違った景色を望むことができます。更に素晴らしいのは近場でも全く違った景色が見れることです。例えば、旅先で「今日は 5000m 級の山に登って氷河を見よう！」と思っていたけれど、雨が降ってきた時、「じゃあアマゾンに行こう！」と 2・3 時間の移動で楽しみ方をガラッと変えられるのです。環境も違えば人の雰囲気・動植物・ご飯も違う、そこでできる体験もガラッと変えられる。
まだまだ魅力のあるエクアドル。是非、少し長めのお休みの際にお越しください。来年の 9 月までなら喜んでご案内致します。

H25-2 川野歩美 バングラデシュ コミュニティ開発 四街道市

バングラデシュで、農村地域住民の生活向上の為、コミュニティ開発隊員として活動しています。私の任地はディナジプールという、首都からバスで八時間ほど北上した街で、ライチが有名な、のどかな田園風景が広がる地域です。配属先は、CDA(Community Development Association)という、地元のベンガル人が設立した、地元密着型のＮＧＯです。北部の農村地域に暮らす貧困層である、土地なし農民や少数民族の生活向上の為、住民組織をつくり、組織の活動を支援したり、彼らの権利、生活向上のために様々なプログラムを行っています。
初めのころは、私に何ができるのか、戸惑うことも多く、言葉もうまく伝わらずに悔しい思いをしていました。とにかく村の状況を知るために、村にホームステイしたり、何度も村に足を運び、彼らの声に耳を傾けることに努めました。村での調査を繰り替えし、彼らの住民会議に参加する中で、言葉もわかるようになり、自分の伝えたいことも伝えられるようになってきました。フリップチャートを作成し、村を巡回する中で、住民組織を作るとどういうメリットがあるのか、彼らのモチベーションを上げるために、モデルとなる住民組織の取り組みを紹介したりしています。肥料として販売できるミミズコンポストの作り方を紹介するため、ビデオ教材を作成する等、住民組織の中でどのように生活向上に働きかけられるか、日々NGO スタッフと共に奮闘しています。
バングラデシュの人たちは、食べることが大好き。そして、お客さんにご馳走することも大好きです。「ご飯食べた？何食べた？」が挨拶代わりになっているほどです。１日三食カレーで、みんな上手に手を使って食べます。そのほかにも、お砂糖とミルクがたっぷり入った「チャ」を飲みながら、おしゃべりをすることもしばしば。食べながらのコミュニケーションをとても大切にしています。初めはご飯とカレーを手で食べることに慣れませんでしたが、今ではすっかりベンガル人のようです。

村の住民組織を訪問調査

また、バングラデシュでは、女性は普段「サロワカミューズ」という民族衣装を着ています。腰丈まであるカミューズ、足のラインを見せない緩めのズボン（サロワ）、胸元を隠すストール（オロナ）の３点セットです。私ももちろん、毎日着ています。彼らの文化に飛び込み、同じものを食べ、見た目も心もできるだけバングラデシュの人々に近づいて、一緒になって活動していくことをモットーに、残りの任期も頑張りたいと思います。

村の住民組織を訪問調査

H25-2 野田みさと ドミニカ共和国 コミュニティ開発 習志野市

「Buenos días. ¿Cómo está?」（おはよう！お元気ですか？）挨拶をしながら、1 軒家を改築した診療所の待合室、受付のわきを抜けて、診療室を通り、階段を上がると私の使用している事務室に到着します。事務室の先には台所兼食堂。大抵 Doña(ドーニャ：年輩の女性への敬称)が「ミサト、コーヒーを飲みなさい！」と声をかけてくれ、コーヒーを飲みながらお喋り。私の 1 日の活動の始まりです。
この曖昧な仕事の始まり方に当初は慣れず右往左往していた私が、今はこんな時間の過ごし方にも幸せだとも感じることができ、1 年が過ぎたことを実感します。

診療所での講習の実施後

私の配属先はドミニカ共和国の首都サント・ドミンゴにあるＮＧＯ。国内 10 か所で低所得者層の子どもたち向けの歯科診療所を運営しており、私はそれらの診療所や周辺のコミュニティで行う歯科衛生講習をはじめとした衛生教育活動のサポートを

行っています。今でこそ各診療所や周辺の学校への巡回を行っていますが、着任当初は衛生教育活動自体が実質休止しており、同僚のモチベーションを上げることから私の活動が開始しました。同僚を伴っての研修への参加、資料の提供等を経て、徐々に同僚達が自発的に少しずつ講習を行うようになってきたことを嬉しく思っています。

少し話は逸れますが、幼い頃から国際協力活動に興味を持っていた私は、18歳の夏休みに初めてフィリピンを訪れました。移動の途中で短いコンクリートの道に出会い、「日本人が造ったんだよ」と苦笑しながら説明してくれたフィリピン人のおじさん。今でもその言葉の空気を覚えています。「現地の人が継続できる国際協力活動をできるようになってから、青年海外協力隊に参加したい」と強く思いました。

ドミニカ共和国の海

それから10年が経ちました。理想的な活動には程遠いですが、同僚達の生活に沿った無理のない活動、それでも住民の方々に貢献できる活動は何か、試行錯誤で活動を行っています。そんな私の気持ちを同僚達は知る由もなく、「ミサトはふらふら歩き回っているだけじゃないか」とからかわれ、ふくれっ面。穏やかな時間の流れの中、ドミニカ人につられてずいぶんと感情豊かになりました。

カリブ海と空の青、涼しい風、たくさんの緑、鳥の声、歌と踊りが大好きな笑顔の美しい人々。もどかしいこともたくさんありますが、私を癒してくれる場所でもあります。健康知識の普及がこの国なりの幸せの形につながることを願い、残り10か月を大切に過ごしていこうと思います。

H25-3 松田沙弥香 ケニア 青少年活動 船橋市

「第二の故郷」から「第三の故郷」へ

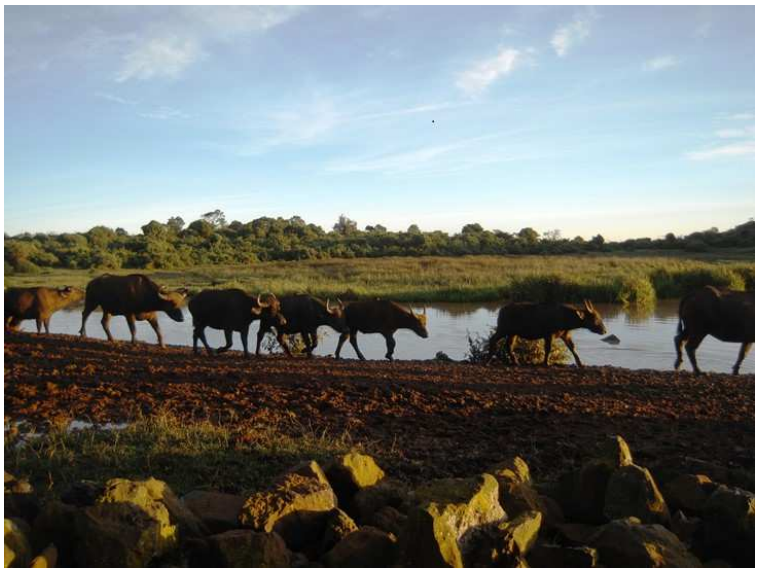
協力隊員にとって、自分が派遣された任地は何よりも大切な場所です。首都からどんなに遠くたって、マラリアの流行地だって、そこに住み、そこの物を食べ、そこの人々と生活していると、いつのまにか、任地をほんの数日離れるのも嫌になるくらいに愛着がわいてきます。大抵の物は手に入る大都市ナイロビよりも、雨が降るとすぐ停電する任地の方がほっとする。まさに「第二の故郷」です。

そんな私の「第二の故郷」は、インド洋を望むケニア東海岸沿いの地方都市マリンディ。真っ白な砂浜と青い海、古いモスクと土着の文化、ヨーロッパ風の建物が混在するエキゾチックな街並み、一年中暖かな気候と美味しい食事。海岸地域の人々はケニアの中でも特に「ポレポレ（ゆっくり）」だと言われ、会議が数時間遅れたり、突然中止になったりは当たり前。感覚の違いから隊員として活動する上で思うように行かないこともありましたが、ゆったりとした時間の流れ方や、自分にも他人にも優しく、いつも許し合う人々の温かさに、何度も救われ、成長させてもらいました。

配属先でマリンディの子どもが書いた「海の絵」

そんな「第二の故郷」から、セキュリティ上の理由で撤退を余儀なくされたのは、派遣後半年を過ぎた八月のこと。やむを得ない事情だと頭ではわかっていても、マリンディを離れるときは涙が止まらず、大好きな同僚や友人たちにきちんとお別れも言えないほどでした。

上手く気持ちを切り替えられないまま、次の配属先に派遣されたのが十月。新しい任地ニエリは、ケニア山（キリマンジャロに次ぎ、アフリカ二番目に高い山）を望む高原地域で、海から越してきた身には厳しいほど寒い。雨が降る日には、低温期でなくても吐く息が白くなります。ケニア最大部族であるキクユ族の総本山のため、配属先では職員も子どもたちも当然のようにキクユ語で会話し、これまでスワヒリ語で生活してきた私にとっては世間話に加わるのも一苦労。はじめのうちは閉鎖的な空気に慣れず、マリンディに帰りたいと何度も思いました。しかし、ニエリで二か月を過ごした今、だんだんとこの地に順応しつつあります。キクユ族の人々はシャイであまり感情を表に出しませんが、よく働くし、時間も守る。どこか日本人に似ています。山川の間に田んぼが続く緑豊かな景色も、日本の田舎のようでどこか懐かしいのです。同じケニアでも、場所が違えば見える世界はこんなにも違う。当たり前のようで、得難い学びだと思います。残り一年の任期を終える頃には、きっとニエリが私の「第三の故郷」、離れがたい大切な場所となっていることでしょう。



ニエリ国立公園のバッファローの群れ

5. OB 近況報告

昭和 54-3 小山栄一 ○○○○ 無線通信機 館山市
初めての海外

１．直接行ってみる
　１９８０年２月９日（土曜日）成田発１６：１５英国航空ＢＡ３６便で、香港、スリランカ、セイシェル、ケニアを経由してたどり着いたのは、２月１１日（月曜日）１２：３５であった。その国とは、東京オリンピックの開催期間中に独立を果たした　○○○○　である。その国から一度、１７５ｃｃのオフロードバイクに乗って、陸路、隣国マラウイを周遊旅行して戻ったが、国境を越えたのは初めての経験であった。その後、その国を１９８２年２月９日に離れ、コンゴのブラザビル、ナイジェリアのラゴス、セネガルのダカール、モロッコのカサブランカ・マラケシュ・フェズ、フランスのパリを経由して、エールフランスＡＦ２７４便で成田空港に帰国したのは、１９８２年２月２７日（土曜日）であり、２年と１８日間であった。
以上は、私の初めての海外旅行であるが、２７歳で青年海外協力隊で派遣された時だった。赴任時は同期と二人、見るもの、聞くものが新鮮であったが、不安ばかりであった。
帰りは当然一人旅となり、二度と来ることができないと思われた西アフリカを回って帰国することにしたが、言葉の通じないフランス語圏をまわって、ある程度、度胸がついたと思う。
　その後、海外には、観光で何回か出かけたが、１０日を越えるような長期旅行はしていない。仕事では、フィリピンに２回、短期専門家で派遣されたことがある。

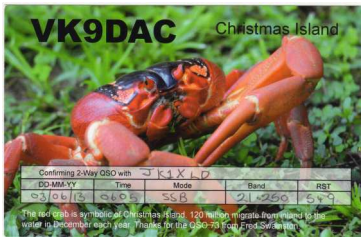
　退職を機に毎年１回くらいは、海外旅行をしたいと思っている。ちなみに退職後の海外旅行は、散々迷った上で、トルコ周遊８日間となった。次は、南米や中米にも行きたいが、飛行機内に何時間も閉じ込められるのはあまり好まないので、東南アジアかな？？と思っている。

２．話をする
　それは、まだ沖縄が日本に返還される前の事であるが、海外と話をするためには、国際電話しか無かったが、ほとんど使うことができなかった。当時高校生であった私は、アマチュア無線に夢中になっており、毎日のように国内の無線家と交信をしていた。そんな時に、沖縄のアメリカ人のアマチュア無線家と交信したが、それがはじめて、英語を使って外国の人と話ができた記念すべき事件であった。その後、より遠くの海外のアマチュア無線家と交信したいと思うようになり、アンテナを大きな物にした。２番目がオーストラリアの局だった。
高校のアマチュア無線クラブに入り、屋上により大きなアンテナを上げ、ますます夢中になり、南北アメリカとも交信できるようになった。その結果、当然のことであるが、学業の成績は不振であった。
　その後、無線関係の仕事に従事することとなったが、プロの世界は、通信する相手と通信内容が決まっているため、おもしろさが無い。その点、アマチュア無線では、世界中の人と交信することができる。音声の他、モールス信号、画像、文字データを送ることもできる。
最近は、携帯電話とインターネットの普及と発展により、アマチュア無線家の数はかなり減少しており、若い人が少ない。また、メーカーの販売する高価な高性能の機械を使用して交信する人が増えてきている。

　退職をして、自由時間を持つことができるようになったので、今後は、アマチュア無線の本来の楽しみの一つである自分で作った機械やアンテナで交信すること。また、より多くの外国の局と楽しく話ができるように挨拶程度から徐々に、各国の言葉を覚えて小さな国際交流を進めたいと思っている。

３．参考
　○○○○　とは、アフリカ南部の内陸国「ザンビア共和国」である。
　９Ｊ２ＥＫは、私がザンビアでアマチュア無線局を運用したときのカードである。

交信記念カードの一例



オーストラリア

シンガポール

フィンランド

ザンビア

6.編集後記

　千葉 OB 会会報新年号、いかがでしたでしょうか？ 会報に関するアイディア、投稿を随時お待ちしております。会報発行をリードしていきたいという方も募集中です。2014 年はこれまで実施してきた JOCV ナビに加え、様々な国際協力イベントへの出展や料理を通した異文化理解イベント「グローバルキッチン」を開始し、活動の幅が広がってきたように感じます。昨年よりもより多くの OB/OG が活動に参画してくれ、OB 会の活動も盛り上がってきました。　活動に少しでも興味のある方は、定例会やイベント情報を HP・facebook・メーリングリストでご案内していますので、是非ご確認ください。　(H15-1 マーシャル諸島 理数科教師 鳥飼 恵美子)

～お知らせ～

ホームページのご紹介　定例会/協力隊ナビ/講演会/懇親会等、各種イベントのスケジュールや、活動報告を掲載しています。
青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ： http://www.jocvchiba.net/

facebook グループのご案内　情報交換を目的に Facebook グループを作成しています。是非ともご参加ください。
青年海外協力隊　千葉 OB/OG 会！：https://www.facebook.com/groups/602920879760218/

連絡先　お問い合わせや会報への寄稿は　info@jocvchiba.net　までお願いします。